

# 柏木教会月報

8月号

東京都新宿区北新宿3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

## 神の国の喜び

マタイによる福音書一三章四四～四六節

牧師 大浦 勝

「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払つて、その畑を買う」（四四節）。

マタイによる福音書一三章四四～四六節には、「畑に隠された宝」と「高価な真珠」のたとえが記されている。どちらも小さなたとえであるが、内容が共通しているので、並べて記されたのである。たとえに登場する二人は、いずれも高価な宝を発見し、その宝に驚き、何としてもそれを手に入れようとする。二人とも持ち物をすべて売り払つて、それを自分のものにする。

畑に隠された宝を見つけた人は、恐らく貧しい日雇い労働者で、雇われて他人の畑を耕していたのである。宝を見つけた彼の喜びはどれほどのものであったであろうか。彼は、それを夢見ることさえも愚かしいと見なされるような幸運を手に入れたのである。彼の人生は一変する。一変するはずである。しかし、宝はまだ彼のものではなかった。彼は自分の持ち物をすべて売り払つてその畑を買い、隠している宝を自分のものにする。「高価な真珠」のたとえに登場する「商人」は、真珠を売買するために各地を旅行していた人である。彼は良

い真珠を手に入れたいと願つて長く探していたが、ついにこの世に二つとないような、最高の真珠を見つける。彼は長い探求の旅が報われたことを喜び、持ち物をすべて売り払つてこれを買う。

彼らは共に幸運であつたに過ぎないのであろうか。自分の持ち物をすべて売り払つても、それを手にいれたいと願う程のものを見つけることは、容易なことではない。わたしたちはそのように喜んで自分を賭け、自分の人生を賭けることができるものを求めているが、それはなかなか見出せないし、得られない。その意味では彼らは確かに幸運であったと言ふべきであろう。

しかし、これらのたとえは「神の国たとえ」である。「天の国は次のようにたとえられる」（四四、四五節）。神の国は隠されているが、確かにわたしたちのもとに来ている（ルカ一七・一二〇～一一）。それはわたしたちを大きな喜びで包む。そして喜びというものは最も大きな力でわたしたちを捕らえる。わたしたちは何としてもそれを手に入れようとし、そのためにどんな犠牲を払つても、それを惜しいとは思わない（フィリピ三・七～八）。

キリストによって与えられている罪の赦しと永遠のいのちの恵みは、わたしたちにとって何ものにも優る、そして何ものにも代えることができない、最高の宝である。望ましいものはこの世界に数多くあるが、わたしたちは最高のものを受けている。この喜びは、生涯にわたつて日々大きく、深くなっていくし、そうであるはずである。何ものにもこの喜びを妨げさせてはならないし、何ものにもこれを奪い去ることを許してはならない。